

(平成28年 1月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水産物全般	<p>1月の総入荷量は、前年に比べると鮮魚は漁獲の低調な魚種が多く入荷が減少したことや、加工水産物は多くの加工品が値上がりした影響で、入荷が減少となったことから、全体として8%の減少となった。価格については、鮮魚が入荷減少により値上がりし、加工水産物も原材料の値上がり等の影響で値上がりした結果、水産物全般の取扱金額は前年並みとなった。</p>
(区分別の動向) 鮮 魚	<p>1月の鮮魚の総入荷量は、前年同月と比べ10%下回ったため、平均単価は8%上回った。</p> <p>品目別には、するめいかは入荷が78%下回り価格は60%上回った。天然はまち、水かれい、ずわいかには入荷が半減となり、価格はそれぞれ24%、12%、55%上回った。あじ、さば、さわら、ひらめは入荷が2割強の減少となり、価格は10～20%上回った。一方で1割以上の入荷の増加があったのは、たら、たこ、すずき、けんさきいか、あまだい等で荷動き良く価格は5～10%程度上回った。</p> <p>2月7日から13日は、中国、台湾では春節となり長期休暇が慣習となっていることから、日本への魚の搬入が滞り、特にあまだいの入荷が減少する。この時期はいいだこが子持ちとなって美味しくなり、ほたるいかも走りが出る季節となる。山陰、北陸のずわいかに漁は3月20日で終了となり、11月初旬まで禁漁となる。</p>
冷 凍 魚	<p>1月の冷凍魚の総入荷量は、前年同月と比べ3%下回ったことから、平均単価は3%上回った。</p> <p>品目別には、冷えびは前年の高値から輸入養殖物を中心に値下がりしたことから、入荷が17%増加した。価格が1割程度上がった冷かれい類、冷あかうお、冷たら等は入荷が減少となった。</p> <p>2月は、3月の決算期を控え、海外からの搬入が減少する見込みで、輸入魚で少し値上がりする魚種もあると思われる。また冷するめいかは、2年続けての不漁で春以降の品不足が予想される。</p>

加工水産物	<p>1月の加工水産物の総入荷量は、前年同月と比べ7%下回ったことや、加工原材料が全般に値上がり傾向にあることから、平均単価は6%上回った。</p> <p>品目別には、価格の上がった塩紅さけ、塩さば、塩いわし、干かれい類等が、1割以上に入荷が減少した。価格を下げた塩銀さけ、ちりめん、ゆでたこ等は入荷を伸ばした。</p> <p>2月には3日が節分で、塩いわしの出番となった。ちりめんは漁が続いており、順調に入荷し価格も下げていることからお勧めである。</p>
-------	---

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	愛媛，長崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ26%下回ったため，価格は33%上回った。
ま い わ し	三重，房総沖で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ5%上回ったため，価格は7%下回った。
さ ば	千葉，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ24%下回ったため，価格は20%上回った。
す る め い か	長崎，鳥取で水揚げされたもの主体の入荷で，漁獲不振により入荷量は前年同月と比べ78%下回ったため，価格は60%上回った。
太 物	きはだまぐろは前年並みであったが，本まぐろ，めばちまぐろはともに入荷減少となり，総入荷量は前年同月と比べ9%下回ったため，価格は8%上回った。
よ こ わ	長崎，和歌山で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ13%下回ったため，価格は11%上回った。
ぶ り	鹿児島，長崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ8%上回ったため，価格は13%下回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ7%下回ったものの，価格は主体のノルウェー産の値下げを受け11%下回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ3%上回ったが，2年続きの漁獲不振となっていることから，価格は5%上回った。
(加工水産物主要品目)	
塩 さ け	入荷量は前年同月と比べ7%下回ったが，価格はチリ産銀さけの値下げの影響を受け3%下回った。
す け そ う こ	ロシア，アメリカ産主体の入荷で，漁獲が順調であったことから，入荷量は前年同月と比べ3%上回ったが，荷動き良く価格は前年並みとなった。

